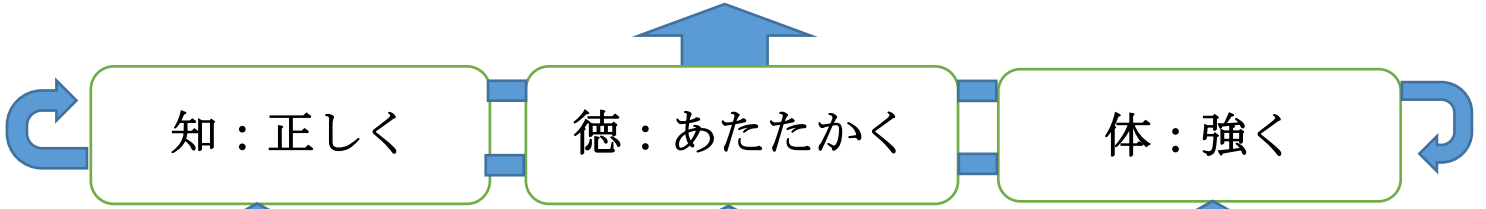




太陽の子



考える楽しみ 学びの深まり	あいさつ	健康的な生活
<p>〇めあてをもち主体的に学ぶ子</p> <p>①ルーブリック(子どもと共有する評価指標)を作成して授業を行った。 A:月に1回行った B:2月に1回行った C:しなかった ②「授業で進んで考えて取り組みましたか」 1,2年 「授業で課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいたと思いますか。」3年以上 A:85%以上 B:70%以上～85%未満 C:70%未満</p>	<p>〇進んであいさつし、相手や自分の良さを認め合える子</p> <p>① いつでもどこでも誰にでもあいさつする。 ② 相手や自分の良さを見つける。 A:85%以上 B:70%以上 85%未満 C:70%未満</p>	<p>〇進んで運動し、健康的な生活をする子</p> <p>①体育部からの提案をもとに体育授業方法や、家庭や教室でもできる運動の習慣化について、学年で検討を行う。 A:学期に2回以上 B:学期に1回 C:0回 ②50m 走の記録が全国平均を上回る。 A:60%以上 B:50%以上～60%未満 C:50%未満 ③「家庭学習強調週間」のメディアの項目において、5日間150分以下を達成している。 A:70%以上 B:60%以上 70%未満 C:60%未満</p>

<p>◇校内の授業研究を中心に子どもと共に、めあて達成のための手立てを設定していく。</p> <p>◇子どもが分かりやすく、意欲的に取り組めるような評価項目を工夫する。</p> 	<p>◇各学年・学級で具体的にあいさつの仕方を指導する。</p> <p>◇進んであいさつするように、各学年で「あいさつ週間」に取り組む。</p> <p>◇相手や自分の良さを見つけ、認め合える活動に取り組ませる。</p> 	<p>◇運動量を確保した体育授業を行う。</p> <p>◇タブレット端末に運動の仕方を紹介する動画を格納し、授業や家庭での運動に生かす。</p> <p>◇「家庭学習強調週間」を実施し、児童の家庭におけるメディアの時間を減少できるよう保護者に呼びかけたり、児童への指導を丁寧に行ったりする。</p> <p>◇養護教諭・担任・学校医が連携し、メディアが体に与える影響を指導する。</p>	
支持的風土	情報活用能力	個別最適な学び	協働的な学び

一人一人の児童に合わせた適切な支援と指導を行い、人や物と正しく関われる児童を育成する特別支援教育

〇細やかな児童理解と個に応じた支援の充実 〇UDLを取り入れた授業の工夫と環境整備
 〇児童同士、また家庭や地域が児童を理解し認め、伸ばし合うことができる交流教育の充実

保護者・地域と共に育てます

- ◇「地域とともにある学校」づくりを目指した学校運営協議会の設置(コミュニティスクール)
- ◇学習支援ボランティアとの協力による授業と活動の充実
- ◇小中一貫教育プロジェクトの推進(学習部会, 生活・生徒指導部会, 地域との協働部会, 特別支援教育部会)
- ◇安心安全な登下校を保障できる地域安全隊とセーフティスタッフとの協力

